

せうか。傾きを見て。

(堀) 観察は遊戯なんかも這入つて居るから、これは特に観察云ふ時間を置く云ふのが無理と思ふ。

(倉橋) 土川さんのお話にしても、今の堀さんのお話にして、實に天下の皆なに聞かしたくないですね。あお餅を嚙まずに呑んで了つた。(笑聲)

○談話に就て

(倉橋) 次に談話はさうです、東京市のきめでは大きい組では三番目、白根さんの方では？。

(白根) 三番目。

(倉橋) 三番目ですね。あの談話云ふものは何う云ふ風に考へていゝのですか。

(堀) 私一寸質問したいのですが、東京市のにしても一回云ふ回数はいゝが、二時間云ふ事になると、これは寧ろ喧しく言へば、話の長さによつて、所謂お話云ふのも談話云ふ事になる。談話の内容をお話云ふとすれば、子供にお話をするのに十五分掛るのをして行けばこれで六

つなくちやならない。保母の方が毎週六つづゝ新しいのをやらぬでも一前のを蒸し返しても一繰返しても一面白い話、子供は何度聞いてもいゝのですが一さう云ふのでやるにしても、やらぬにしても、その意味の談話にするに大變ですね。

(倉橋) だから難しい。

(檜山) でも先生、子供はお話が好きで……。それに居るお話ばかりでなく子供から聞くお話も中に這入つて居る。

(堀) 子供が話して代りゝゝに聞く。

(檜山) それをしても談話。

(倉橋) 留岡さんの方ではどんなに。

(留岡) お話は毎日、土曜日は時間が短いですがから致しませぬが他の日は大概致します。十分か長いのは三十分位さうして日によりますに二度位する事もございます。時によりますけれども全體で一週間に三時間位お話をする時もございます。

(倉橋) そのお話云ふのは所謂童話云ふ様な纏つ

たものを先生が聞かせるのですね。

(留岡) そして大概月曜日は子供がお話をする。私が幼稚園の方を始めました初めに、一體何にも正式に教へて頂かなくつて幼稚園を始めたのですけれども、竹早町で伺つて来て、その保育項目配當を参考しました。その印刷になつて居つたのは談話が三時間、私調べて見まして二時間の事もあり、大抵三時間の事もあるので大概いゝんじやないかと思つてその様に致して居ります。

(倉橋) 水野さん。

(水野) 私は未だ幼稚園に参りまして日が短いので檜山さんがお読み上げになつたのを實は時間だと思つて居りませんでした。保育項目時数は二十四時間、配當回数云ふ風に今日迄思つて居りました。先生が自分で案を立てまして子供に聞かせるお話は二回だと思つて居りました。

(倉橋) 大變な相違になつて來ました。

(水野) その間にお話し乍ら駭をする云ふのは殆ど毎日の様にして居ります。

(倉橋) 八木澤さんの家庭的幼稚園に於きまして、お話

は何う云ふ事にしていらつしやいますか。お話は何うお取扱ひになりますか。

(八木澤) 大概一週間の豫定を立て、居りますがその豫定が中々實行出来ないでござります。初めの一週間にさう云ふ豫定を立て、出来ない惱みが次の一週間には出来なかつたものを何う云ふ風にしてするか、又それを變へてして見たりして居ります。一番お話は致しますけれども、そのお話は私の方の子供は中々注意が大變に散漫で注意させる云ふ點が……お話を私の方がお話を致しますのが一週間に一度お子さんの方からお話を聞くのは決りなく何度も聞く。時によります。殆ど毎日の時もあります。矢張、私が氣が小さいからお子さん達も氣が小さいので、解つて居るけれども言ひ現はせない人が随分ござりますので子供等も談話、話せる様にしたものですから、決めは一週間に一度云ふ豫定は立て、居りますけれども、回数は何回も言へない位致します。

(倉橋) さうするに一週間に一回案を立て、おいて實際は何回するか解らぬ。假に白根さんの様に實驗的にお拾

ひになつて見たらばきの位になりますか。

(八木澤) 私の方で保姆が致しますのは一回でございます。お子さんが致しますのは二回。

(倉橋) お話ミ纏つてするのはそれで。

(八木澤) それ以外に自由遊びの系統、さう云ふ何ミ言ひますか。自由遊びミして澤山お話を。

(倉橋) 自由談話。

(八木澤) さうでございます。言葉の言ひ様も存じませぬので。

(倉橋) その自由談話の中には「蛙が居たのよ」云ふのも自由談話ですが、所謂纏つたお話、童話ミ言つた様なものを含んで居るのですか。

(八木澤) 纏つたお話を致します。さう云ふのを、纏つたお話ミなります。何うしても系統正しく話を致します。それは本を読んで聞かせる事もあるらしいです。

(倉橋) それは子供がするのは二回ミして、自由談話ミして纏つた話をするのは數へず、させるか、するミかで區分があるので話は同なし様な事をするのですね。

(八木澤) 唯、一番嬉しいミ思ひますのは、庭が廣いものですから、自然物に接して、今頃になりますミ、お天氣のいゝ日、風の當らない日は出す様に成可くして居りますけれども、誰かが風邪を引いて居りますミ何時も出していいミ云ふ譯にも行かないので、特に暖たかい日だけしか出せないのでございますから、今頃は子供達が家で本を讀んで聞いて居りました話は、ちゃんミ、昔話ミか歴史的な話も致しますし……。

(倉橋) 所謂童話の方の専門家が幼稚園に於ける話、その話ミしてミなく、童話そのものミ云ふものを抜きミして、自由さを、それを効果ミして、それをさうミして居られる、あの意味に於て談話を談話ミして與へられるのが先生は一週に一度ミ解釋していらつしやるのですね。

(八木澤) さうでございます。

(倉橋) 新庄さん、貴女の幼稚園(笑聲)では何うしていらつしやる? 今日主事が出て居りませぬので。(笑聲)

(土川) 私も是非、こちらの幼稚園の。

(倉橋) 何でも今聞く所によるミ、組によつて違つて居

る様なお話ですから、貴女のお話を以て幼稚園全體を代表なさる云ふ様な意味でなく、貴女のやつていらつしやる事をお話下さつていゝじやないでせうかね。

(新庄) 數で表はさなければならぬならば、先生が――保姆が致しますのは、二度位でございませうか、一週に後さう云ふ風に……。

(堀) 子供に或時間纏つた、或子供から順々に話をさせる云ふ談話の時間もあるんでせう。さう云ふのは？

(新庄) まあ二度位と思つて居りますけれども。

(堀) それからさう云ふ場合に子供が聞いた、所謂お話、童話の様なものをですね、八木澤さんの所では家で聞いた事で澤山……。こちら邊りでは何うです？

(新庄) 一日の中で何度もして居りますものですから、數で何う言つて、數で一寸斯う表はせない。

(堀) 時間數で言つて一週間に？

(新庄) さう云ふのは時間で表はして居ないんでございませけれども。子供の方から色々家であつた事や聞いた事や、時には昨日さか今朝聞いた色んな話を先生が、子供に

する様に、子供が私にして聞かせる事もございませうがさう云ふのはさうも。

(堀) はつきり解らなくても、凡そ何の位になります？

(新庄) 時期によつて違ひ、組によつて違ひますし、大變に言ひたがる――發表型の子供はしよつちう、他の子供がそれ程話題にしない事でも随分話にしていらつしやる。其處の、さう云ふのは時間でさか回数では。

(倉橋) 貴女の幼稚園は随分ぼうきして居る。(笑聲)

(堀) 其處で私がお聞きするのですが、話型の者に話させる云ふ事は當然でせうが、話をしない子供に話を仕向ける事は？

(新庄) それはさう云ふ事は、あの子は話が出來ない様だから、何かの折にしようつちうその事を氣をつけて居りまして、何かの折に何うしても話さなければならぬ様な事を聞いたり、その子に言はせたり云ふ事を、一日の中に何度もして居りますものですから、さう云ふ風にして居るもので。

(堀) 其處で幼児が小學校に來る迄の間にこれだけの事

を言語發表の練習としてやらなければならない。それでそれをやるには何の位の時間が要るか、教育的、自然に出て來るのではなく大人の方から、まあ發音を正しくないから幼稚園時代の發音を凡ての子供に普通の言葉だけでも正しく發音する様に。

(新庄) それは絶え間なくして居ります。

(堀) それは時間が出て來ませぬか。

(新庄) それは……。

(倉橋) 新庄さんは臺口の中にお金を澤山持つて居るので自分で却つて幾らあるか解らない。(笑聲)

(新庄) 勘定は不得手で困ります……(笑聲)

(倉橋) お話の場合は、所謂兒童文學として價値あるものを子供に幾つ位なさつたらいいか、云ふ話數、回數でもなく時間數でもなく、話數云ふ事は問題になりますまいか。

(渡部) 私伺ひ度いと思つて居りましたが、私の方はずる〜。私は主に製作的の事をやつて居りまして、もう一人の方がお話しか畫をやつていらつしやるのでございます

が、そのお話を好きな子供は三つも四つも「それからそれから」何うしても止められない、「しててもい〜でせう」ご仰有るからその儘にして居るんでございます。さう云ふ子供は後に残つて居る、のが十二、三人位ございますから何うしても三つか四つ位ないさ。

(倉橋) お汁粉だつて一杯に限られて居るからこれで止めるのですが、幾杯でも出る云ふ事になるさ(笑聲)……。今のは多過ぎる方のお話ですが、少な過ぎる場合もあるかも知れない。世の中には、殊にお話、兒童文學の數云ふ方から言へば何千何萬あるか分らない。長さの方云ふ事になりますさ「あ〜」なんて言つて居れば、いくらでも長くなる。(笑聲)それを東京市に報告すれば。保育時數を出すさなるさこれは先生は他の保育項目でもさう云ふ事があり、法規の場合はさう云ふ事もあるが、始終いゝ話を選んでストックを持つて居て、お母さんならばおは、一番、十八番でなくても通せる、さう行くさいゝのですが、幼稚園の先生が談話云ふものを一つの重要な幼児教育の手段として居る、云ふ事になるさ、仕入れに力の入れ方が

足りないのではないでせうか。自分の知つてゐるのを勘定して見たら實に僅かであつた、ミ云ふ事はあり得る。お話は文學でありますから一體幾つ位、幾つ位ミ云ふのは三回をひつくるめて一回、三つ話せば三回ミ單位の名前を變へれば大變違つたものになりませうけれども、一體まあ一週間にお話を幾つ聞かせたいものでせう。

(堀) それを一つ柴田さんに伺ひ度いが。咄家はななしが何う云ふものミ註文するのは別問題ミして、兎に角幼稚園の子供を扱つて居つて、これ位の話は二年間に話してやり度いミ云ふお話の見當はありませぬか。

(柴田) そんな難しい見當はありませぬけれども。

(倉橋) 簡單なる答だね。(笑聲)

(柴田) お話、大變子供は好きでございますけれども毎日居りますミ、毎日お話しして聞かしますミ飽きる様でございます。自分の感じで申上げて失禮でございますが、一日置き位。

(倉橋) 一日置き。

(渡部) 私のお話、お汁粉で消えて了ひましたけれども。

(倉橋) 段々其處へ行くミ思ひますけれども。

(柴田) 幼稚園ミしては隔週にはきつミお話する事になつて居りますけれども、私の組ミしては一日置き。

(倉橋) 幼稚園ミしては隔週?

(柴田) 全體ミしては代り番ミに、紙芝居ミお話。自分ミしては一日置きに。子供の方からも要求されます。

(堀) その一日置きのがまあ大體に於て一週間に三つミするミ、一年間に百位になりますか。新しいのを百位。百ミ云ふものをするんですか。その中にはまあちつミ、五十位繰返すのが、五十位ですか?

(柴田) 大きい子供は變つた話を、小さい子は先せんした話が好き。

(倉橋) 兒童の心理の中での位都合のいゝものはない。(笑聲)

(坂内) 小さい子供ばかりの組でございますが、四つ位の子が十人位でございますから、二つ位して欲しい様に思ひますけれども、小さい子供はもう飽きたミ言ひますから。大きい組ならば長いお話を一つ。

(倉橋) 一回ぎの位聞かしたらいゝでせうね。

(堀) 長いのもあり短いのもあり、お蕎麥でも長いのもあり切れたのもあり、今日は此處迄云ふので残して置く。

(笑聲)

(柴田) 子供はそのお話はそれでお終ひになつたと思つて居ないんです。「これでお終ひ」言つてもお話のお終ひ、大人が考へる様に考へて居ないんです。

(倉橋) 反對に續いて居ても切れてる。

(堀) それからそのまゝ、大體に於て一回平均するに何れ位になりますか。最も長い話云ふので、こちらの方では三十分を豫定しようとしても、飽きるのではありませんか。

(柴田) 大概飽きない。

(堀) 上手だからですね。

(倉橋) 其處で話を幾つ與へるべきか、云ふ貴方の理窟から決めても、渡部さんは別の悩みが出て来る。詰り幼稚園にみんなお話を整へておくか。何でも彼でも澤山、多くあればいゝ云ふのもいゝのですが、少くもこの位用意しておかなければ、自分が覺えて居ても忘れて居ても、

いざとなれば書いてあるのを見ても(笑聲)、それをもつて居なくちやならない。これは數は何の位なければ保姆さしてはいけないか、はつきりしませぬか。談話も兒童教育で、何う豫定して何う云ふきの位持つて居なければならぬか、云ふ事は始終選んで居るですが、何の位あつたら足りるか、云ふ事は、小學校の讀本は教材が限定されて量的にも決めて居るが、あれに似た様な意味でお話にしては何の位持つて居たらいゝでせう。一體先生方何の位お持ち合せのものですか。

(柴田) 本當の得意の話は一つ位。

(倉橋) 「エヘン」云来る。その代り本當に上手だ云ふ……。(笑聲)

(留岡) 幼稚園協會の御本でござりますが、あれも勿論結構でござりますが、興味の深さ、小さい子は宜しうござりますが、大きい子供はもつと、面白いの、云ふ言葉を使ひますが、刺戟の多いの、つて申しますか、御本の中にあるお話が變化がなさ過ぎる云ふのか、この節の子供があの頃より複雑になつたのか、刺戟的なものを、多少刺戟

的なものを喜ぶんでございますけれども。

(倉橋) さう云ふ事はありません。まあ、私、あの本に關係した時の、皆さんと話合つた心境を基にして言へば、刺戟の多い話が多過ぎたのに對してあゝ云ふ本を作つた云ふ氣持だつたと思ひます。それが過ぎたるは及ばざるが如し、になつて居るかも知れませぬ。それが何の位あつたらうか、云ふ事は解らぬ。又追々ごの位と解つて來るでせうけれども、結論はこれないとして、自分にもいゝお話がたんまりないに困るので、實は幼稚園協會に於きましても、來年、幼稚園に相應はしき童話を募集、廣く世に募集したいと思つて居るのであります。色々な懸賞をつけて募集したいと思つて居ります。これは是非皆様にも應募して頂きたい。本協會主催のことでありますから今から申上げておきます。

さあ、其處で残る保育項目

○觀察・唱歌

(八木澤) 子供がお話へ自分で作つたお話を致します。

それは私から纏めいゝお話が、外遊びの出來ます時に、庭が廣いのでお庭で遊んで居ります時に、自分達が觀察云ふ事で質問致します。それを忙しい時には「一寸待つて頂戴ね」つて頼んでおきまして、翌る日か都合のいゝ時に聞いて居ります。その事が今頃になりました、時期が過ぎました今、自分からお話させます時にそのお話が這入つて來ます。蟲の話とか木の話、そんな話を私達が聞くに、嬉しくつて仕様がなものですから自分のお話が大變多くなります。大變に觀察の方になつて行くのでございませうが、そんな話は子供の言つた時に、子供の間違つて居た時には一寸口を入れた方がいゝでせうか。子供が折角空想してさう云ふ風に話をして來た時に「あゝさう」言つて聞いて居た方がいゝでせうか。

(倉橋) 何うでせうか。堀さん。間違つて居れば直すんでせうね。

(堀) 其處の程度、子供が空想的なお話にしてつて居ればそれを無理にさうも、あれが話して居るから言つて咎むべきではない。言葉が違つて居る事は後で直してもい